

週報

こひつじ

第40巻 2号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

なぜ泣いているのか

その二 不幸そのものが幸福であった

星野富弘さんも、最初は自分
 起こった不幸を嘆いた。
 て、体育館へなど行ったのか。悔

あれは雨上がりの透き通るほど
 の深い青空が洗濯場から見えた日
 泣いた。

「こんな天気の良い日に、洗濯
 な 野さんは言っている。自分の悲し

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

「ここの人が迷惑をかけたので、
 勢の人に迷惑をかけたので、こ

故以前は、ひとりの平凡な体育教
 師であったが、その苦悩を通して
 多くの人の心を慰め、励ます詩人
 となった。
 いったいどれだけの人が彼の詩
 画集によって勇気を得たことだろ
 う。

星野さんは、不幸のうちに幸福
 になったと言っているのではない。
 不幸そのものが、実は幸福であっ
 たと言っているのである。

それが神のなさることではない
 だろうか。
 このように、人はだれも悲しむ
 必要がないのに悲しむということ
 がある。

それはなぜか。
 マリヤがその過ちに陥ったのは、
 目に見えるイエスの亡骸にあまり
 に思いを寄せすぎたからだった。
 目に見えるもの、いつかは失わ
 れるもの、だれかが奪い去る可能
 性のあるものに自分の幸福を見い
 だそうとするなら、人は必ず失望
 するだろう。

健康であれ、財産であれ、ある
 いは妻や夫、わが子であっても、
 自分の意志に反して奪われる可能
 らわれているとき、苦しかった、

星野さんは、自分のいのちに捕
 らわれているとき、苦しかった、

星野さんは、自分のいのちに捕
 らわれているとき、苦しかった、

と書いています。

ところが、クリスチャンになり、目が開かれ、命よりも大切なものがあると知ったとき、その重荷から解放され、喜びと生きがいのあ

る人生を見いだしたのである。マリヤの体験から学ぶもう一つ、まだ手にしていない何か遠くなく近くにある。いや、多くの場合、すでに与えられているという

ことだ。私たちが今手にしている「今日」

マリヤは、イエスの亡骸が取り去られたと思つて泣いたが、イエスはよみがえつて、彼女のすぐ後ろに立つておられたのだ。

このようにわれわれの幸福は、多くの場合、目を開きさえするならば、すでに与えられている。それ

もとても身近なところに。今日という日がそうではないか。作家の辻邦生は、あるエッセイのなかで、突然、自分に与えられた幸いに気がついて、その感動を、こう語っている。

「この世に太陽もある。月もある。魂の仲間のような星もある。信じられないようなよきものに満たされている。雲がある。風がある。」

夏がきて、秋がくる。友達がいる。

よき妻や子がいる」「何一つそこに付け加える物はない。すべては満たされている。そう思うと、急に、時計の音がゆっくり聞こえてくる」

私たちも、幸福を明日にはなく、また手にしていない何か遠くのものではなく、また奪われる

私たちが今手にしている「今日」に、そして「今日の義務」に求めたいものだと思う。

「今は恵みの時、今は救いの日です」(第二コリント六の二)と聖書

は言っているのだから。(終)

今日の礼拝

- 第一礼拝は午前一〇時から、
- 第二礼拝は午前一一時から。
- 教会学校は午前一〇時から。
- 説教は江藤洋子さん。

先週の礼拝

- 司会は西岡潤也さん。
- 説教は米村牧師。

今年のローズンゲンの聖句「い

つさいのことを愛をもって行ないなさい」(第一コリント一六の一)

今年には行動が求められていません。行動とは何でしょうか。ただ考えることは行動であり

行動とは前に向かって一歩踏み出すことです。

しかし、すべては愛をもって、とパウロは勧めています。

先週の出席

- 礼拝参加者は、第一礼拝が四五名、第二が四五名、合計九〇名(男三一、女五九)、それに子どもが五名、合わせて九五名でした。

案内・消息

- 『こひつじ Jr』第二二号ができました。今回の「あの人インタビュー」は石山美和さんです。
- 一二月二四日の礼拝に細見夫妻が赤ちゃんといっしょに来てく

ださいました。五ヶ月の未熟児で生まれましたが、元気に育つて

るとのことです。感謝。○一二月三十一日の礼拝には神戸から岩崎恵理香さん、韓国からキムさんのお母様が出席してくださいました。

○久留米市在住の井上京子さんからお便りがありました。左記に記載。

お便り

井上京子

毎週の週報と、そして礼拝のYouTube の配信で、教会の様子が

確認でき、それを楽しみに過ごしております。コロナ禍でもあり、教会への道が遠くなり、悩んでお

ります。でも、日々、神様に生かされ、健康も守られ、仕事も楽しくやっております。

ローズンゲン(日々の聖句)を愛読しています。二〇二四年のものを送ってください、まさかのびつくり、ほんとうにありがとうございます。